

平成25年度 桑名市地域医療対策連絡協議会

平成26年3月18日（火）

【事務局（加藤）】 それでは、皆様、こんにちは。

定刻の時間になりましたので、ただいまから平成25年度桑名市地域医療対策連絡協議会を開催させていただきます。

私、進行をいたします、保健福祉部の加藤でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

委員の皆様には、大変お忙しいところ、ご出席を賜りましてまことにありがとうございます。

また、本日は、山中委員と副市長の田中が所用のため欠席でございますので、どうかよろしくお願ひいたします。

それでは、会議に入ります前に、資料の確認をさせていただきます。

座って失礼をいたします。

それでは、本日使用いたします資料といたしましては、平成25年度桑名市地域医療対策連絡協議会次第、続きまして、資料1といたしまして、新病院整備事業の進捗状況、そして、それに関係いたします新聞の記事でございます。資料2といたしまして、桑名地域小児在宅医療検討委員会の開催状況、資料3といたしまして、桑名市在宅医療及びケア研究会、平成25年度の開催状況、そして、資料4で、桑名市地域包括ケアシステム推進協議会条例、そして、最後に席次表でございます。資料のほうはよろしいでしょうか。

それでは、本日の議事に入りたいと思いますので、議事につきましては、これから議長の東会長に会議の進行を、どうかよろしくお願ひいたします。

【東議長】 どうも、皆さん、足元の悪いところ、ありがとうございます。

この4月1日から新しい診療報酬の改正がありまして、その内容を見ていまして、急性期医療、それから、地域医療といいますか、そういうもののすみ分けというものがしっかりと、めり張りがついてきたと、こういう流れは前々から言われましたけれども、やはりそれが濃厚にできたというように思っておるところであります。

そういう流れに、私どもの桑名市の地域医療の対策というか、計画に沿ってしっかりと、それに沿ったような形で進んでおると思っておるんですけども、どういうわけか、気象

のほうでもそうなんですけど、変な偏西風が吹き荒れておりまして、思うように進まないところがあるというのがちょっと残念ですけども、私どもの問題ではないところもあるようございまして、その辺のところの今日は協議日程のようございましてけれども、何はともあれ、しっかりとこの流れというものは進めていかないといけないというように強く思っておりますので、今日もいろいろ議事がありますけれども、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、座って失礼いたします。

まず、議事の報告をお願ひしたいと思ひます。

平成25年度主な事業報告、①新病院整備事業の進捗状況について、事務局のほうから、よろしくお願ひします。

【事務局（黒田）】 地域医療対策課の黒田でございます。

報告事項（1）の平成25年度主な事業につきまして、ご報告させていただきます。

まず、①新病院整備状況の進捗状況につきましては、新築部分の実設計が昨年10月に完成しております。その後の経過につきましては、報道等でご承知とは存じますが、昨年の12月に建設工事に係ります入札参加申請を受け付けましたところから、1社、申請がございましたが、後日、辞退届が提出されまして、この入札が第1回目として延期されております。その後、本年の2月の臨時会におきまして事業費の増額と工期の延長につきまして可決をいただきました。その資料がお手元に配らせていただいております資料1でございまして、それと、新聞報道でございまして。その中には、2月17日から3月7日までの間、再入札の入札参加申請を受け付けておりました。しかし、今回の再入札につきましても受け付け期間中に入札参加申請がなく、再入札についても中止となったところでございまして。

そして、総合センターにおきまして、事業者から確認できました再入札の状況でございますけど、名古屋駅前の大規模再開発とか、東日本大震災の復興による職人不足等によるものがありました。今後、対応策がまとまりましたら、改めまして市民の皆様にご公表していく予定でございまして。

市と総合医療センターとしましては、今回の件を大変残念なことと受けとめており、市民の皆様の期待に応えるために、できる限り早く新病院整備事業が完成するよう全力で取り組んでまいりますので、引き続きご理解とご支援をよろしくお願ひ申し上げます。

続きまして、②の桑名市小児在宅医療検討委員会の開催状況につきましてでございます。

資料2をお願いします。

この事業でございますけど、三重県が国庫補助事業でございます小児等在宅医療連携拠点事業を申請しておりました。そして、国からそれが採択されましたことから、この事業のモデル地区として桑名市と鈴鹿市が選ばれております。この選ばれた理由でございますけど、桑名市と鈴鹿市にはNICUのある病院がございません。ですから、NICUで長期療養した児童などが地域に帰り生活をするに当たり、NICUがない地域でどのように在宅医療を行っていくかを検討、研究していくために選ばれたというふうにされております。

この検討会を行うため、桑名市では、桑名市小児在宅医療検討委員会を組織しまして、これまでに3回を開催したところでございます。

現在、今回のこの事業で提出物となります、成果物なのでございますけど、桑名市小児在宅ケア支援ガイドブック、こういうガイドブックを作成しております。今現在、その作業を行っているところでございます。

そして、今月の23日の日曜日なんですけど、県において、この事業報告をさせていただきます。

次に、③桑名市在宅医療、ケア研究会の開催状況でございますけど、資料3をお願いします。

平成23年度に医療、福祉、介護に携わる多職種の現場レベルにおける連携、情報の共有化と知識の向上を目的に立ち上げた研究会でございます。今年度は2回を開催しております。これまでに通算で8回開催したところでございます。

この研究会の内容も、東先生にご講義をいただきました、みとりの事例も交えました在宅医療の実際や、パーキンソン病についてなど、実際に在宅医療に携わる方の関心が高く、また、実践につながるものを取り入れるよう、回を重ねるごとに工夫をしているところでございます。

私どもとしましては、今後もこの研究会の充実に取り組んでまいりたいと考えております。

以上、平成25年度の主な事業についてのご説明でございます。よろしくお願ひ申し上げます。

**【東議長】** ありがとうございます。

まとめてご報告いただきましたですけども、どの問題でも結構なんですけども、ど

なたかご意見がございましたら、いかがでしょうか。

今、説明を受けましたけれども、新病院整備事業につきましては、確かに、この地域だけではなくて、いろんな、三重県下でも、紀南の病院とか、あるいは津の事業なんかも頓挫しているように聞いておりますし、単に金額の問題ではないと、もうマンパワーがないというようなことを聞きますと、かえって、金額ならば、じゃ、上げればいいのかというようなことにもなりますけど、マンパワーということになると、なかなかどういう手だてがあるのかと、かえって心配になるようなところもあるんですけども、私どもの素人から見ますと、今までのような入札方式では、変えないといけないのかなと個人的に思ったりするんですけど、素人の考えなので何とも言えないんですけど、竹田理事長、この辺はいかがなんでしょうか。

**【竹田委員】** どうも、いろいろご心配をおかけいたしまして、申しわけございません。

2回目の入札も中止ということになりまして、実は、きのうも市議会の特別委員会でご報告申し上げましたけれども、これからは、もうとにかくいろんな方法があると思います。通常の入札ではなしに、ほかの方法も、もちろん合法的な方法でできることは何でもいろいろ検討してみようと。

実際は何社か問い合わせがありまして、やっぱり、例えば、もう少し、1年ぐらいおくらせてくれたらできるとか、そういう会社なんかもございましたので、そういう会社とこれからいろいろ話し合いをして、どこまで時間ができるかとか、また、どれぐらいであれば、最短の時間で開始できるかというようなことをいろんな会社に問い合わせ、少しでも早く着工に移りたいと、あるいは契約をしたいと。契約して、何年の何月何日にできますということがはっきりすれば、そうすれば職員もほんとうにそれだけでもありがたいと、市民の方々も多分そうだと思うんですけど、そういうことで、これから4月、5月に向けて、もっと全力を挙げて、何とか契約できるような方向に持っていきたいと思っておりますので、またよろしくご協力をお願いしたいと思います。

**【東議長】** ありがとうございます。

ほんとうに私どもも一市民として、とにかく期待が非常に大きいとともに、何としてもやらないといけないことだとは思っておりますので、私どもの医師会なんかでも、できることがあれば、何なりとお申し出いただきたいと思っております。

ほかの方、ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

じゃ、期待したいと思っております。

続きまして、小児在宅医療検討会議のご報告がございました。

2月でしたですか、県のほうで在宅医療の事例検討会というのがございました。その席でも、岩本先生も来られて、小児在宅の紀北町の事例が1例出まして、私どもも聞かせていただいて、1週間の症例だったですね。悪性腫瘍で家で亡くなられて、ただ、お聞きしていますと、1週間だけなんだけれども、ご家族、それから、その子供さんの兄弟が兄弟の死という、子供さんの死というものを非常に意義深く受け入れることができたということで、大変我々も聞いていて感動するような症例だったんですけれども、いろいろ小児の在宅という問題には、そもそもケアマネに当たる方がいないというので、中心的な役割をする人をどうするかというような、今後こういう問題があるようなんですけれども、福本さん、いかがでしょうか。直接いろいろ携わっていただいているようですが。

**【福本委員】**      ありがとうございます。

先生が、今ご指摘くださったように、小児の場合は、マネジメントするというのは少し難しいのでして、障害者の総合支援事業の中でマネジメントする役割を今後担っていく方が出てくるかと思いますが、やはり小児の課題とか、医療依存度の高い人の場合は、ほんとうに看護職がやれるといいなと思いますけれども、訪問看護自身も少ないので、ちょっと課題かなというふうに思っております。

ありがとうございます。

**【東議長】**      その他、どなたか、ご意見がございましたでしょうか。

どうぞ、長坂先生、お願いします。

**【長坂委員】**      追加で、小児の在宅医療でございます。

これは三重県の事業でして、それを三重大に委託して、三重大から再委託の格好で、今、桑名市と鈴鹿市が当たっております。

まず、桑名市が病院の再編、統合に向け、桑名市の小児医療の提供体制の委員会を持っておられましたので、議論がその委員会を利用させていただいて、桑名市の善意によってスタートできています。内示があったのは8月の下旬でしたか、ですから、単年度事業でという話でしたので、そういう桑名市の力なしにはとてもできませんでした。やりながら思っておりましたのは、成人の、高齢者の在宅医療はものすごい今、内容が動いていて、その次に子供の在宅医療も考えなくちゃいけないということで国がモデル事業を、全国で8都県、モデルがあります。その背景にあるのは、福祉のヘルパーさんとかに、医療行為、医療的ケア行為が研修を受けたらできるということが進んでいます。27年か8年

からは、家庭の中で自動的に吸たんとか、そういうことが可能になってきて、医療と介護の連携で裾野が広がっていると。その中で、大人をまずスタートさせて、その次に、介護保険の被保険者でないグループのところをフォローしていくと。

人員の育成としては、小児の在宅医療の訪問看護ステーションが、ももさんをはじめえがおさんとか、かなりの数を扱ってみえるので、ある程度、そういうことを通して、実態が分かってきています。現在まで、35名ほどの医療的ケアが必要なお子さんが桑員地区に住んでおると。名古屋の病院だったり、大阪の病院であったりとか、そういうふうな今までわからなかったことが、ここのところをやることによってわかってきたことと、そして、大人のシステムがそのまま流用できないということがわかってきました。問題点がはっきりしてきましたので、じゃ、在宅の本人とか家族の大変さをどうするかということは今並行して調整しているところです。

ベースにあるのは、奈良県の妊婦の手法であるとか、墨東病院の母体搬送の手法であるとか、あれは、要するに、母体が病気ということではなくて、NICUが満床で受け切れなかったということがありましたので、NICUからどんどん返すようになっています、ここ五、六年で。ですから、NICUから一気に在宅へ送るようになってきていますので、これも非常に大事な事業だなというふうに今思っています。

また、終わったところで、桑名市さんとまとめに入りたいと思っています。

以上です。

**【東議長】** どうもありがとうございました。

小児の場合は、大人と違いまして、どんどんどんどん大きくなっていきますし、教育の問題もありますし、大人の何倍もいろんなパワーが要ることだろうと思いますけど、とにかく、小児が大事な日本ですので、多分この問題も議論していかないといけないんだろうと思っております。

先生、お願いします。

**【竹田委員】** NICUに関連して、東医療センターのほうですけれども、来月、4月1日から周産期科ができ上がりまして、それで、それまで、大阪の循環器研究センターにみえて、現在は天津の中央病院にみえるんですけれども、大学の池田教授の弟子に当たる佐々木先生という方が、まだ40代半ばぐらいだと思いますけれども、非常に熱心な先生で、その先生が4月から常勤で着任されます。

それで、小児科のほうも、大分小児のほうを応援していただけるということと、それか

ら、あと産婦人科のほうもどんどん人を出してくれるということで、あと看護師のほうも、そういうのが整った時点でNICUというふうに持っていきたいと思います。ということで、特に、佐々木先生は、お産ももちろんなんですけれども、新生児で異常のある子をどんどん引き受けてセンターで治療したいと、そういうふうに言われておりますので、少し状況が変わってくると思います。

【事務局（黒田）】 事務局の地域医療対策課の黒田でございますけど、今、竹田委員のほうから、東医療センターのほうに周産期科ということをおっしゃられたんですけど、桑名市が作成しました基本構想の中には、小児科、産婦人科となっておるんですけど、それとは別に周産期科というのをつくられるのか、周産期科があって、小児科、産婦人科ができるものなのか、ちょっとその辺を。

【竹田委員】 いえ、小児科、産婦人科とは別につくるんです、新しく。

【事務局（黒田）】 別につくられるということですね。ありがとうございます。

【東議長】 お聞きしていますと、ハードよりソフトがどんどんどんどんと充実してきているようで、これは大事なことだろうと思うので、まず、できるところからやっていただければほんとうにありがたいと思っていますので、よろしくお願ひしたいと思います。

それでは、在宅医療及びケア研究会のことで、どなたかご意見はありますか。

これは、確かに、これから在宅医療に関してはどうしても地域という、域包括ケアシステムね、もうわからんようになってしまいますけど、その推進協議会も立ち上がりまして、この問題はほんとうにいろんな意味で、これからの社会がどうしても、こういう医療と介護と、それから生活支援、この3つががっちり手を組んでやっていかないと、おそらく立ち行かないようになるだろうと思っていますので、それのこの勉強会というのも100人以上の方が毎回出てこられまして、専門職の会議ですけども、大変盛り上がりを見せておりますので、ぜひ、これと、それから、インフォーマルなという、ボランティアの方、民生委員の方との、また輪がこれからできていくんだらうと思っています。大いに期待しているおるところであります。

よろしいでしょうか。

それでは、この報告事項に関しまして、1、2、3についてはこれで終了したいと思います。

続きまして、(2)の平成26年度以降の当協議会のあり方について、事務局、お願ひします。

【事務局（黒田）】 地域医療対策課の黒田ですけど、報告事項（２）ですけど、平成26年度以降の当会議のあり方につきましてご説明申し上げます。

本日開催しております桑名市地域医療対策連絡協議会は、平成21年7月1日に設置されております。本市の地域医療体制における諸問題につきまして多方面からご検討をいただいていたところでございます。また、下部組織として、平成22年10月には、地域医療提供体制部会を、同年の11月には、医療と福祉、介護等の連携部会を設置しております。そして、その中で、より専門的な見地からご意見をいただいております。それぞれの部会のご意見をもとに、公的病院と民間病院の統合や、桑名市在宅医療及びケア研究会の継続的な開催が実施していることはこの協議会の大きな成果でもございますし、委員の皆様は深く感謝をしているところでございます。

また、一方で、この間、地域医療をめぐる環境は少しずつ変化してきております。医療だけでなく、介護や福祉も含めさまざまな生活支援サービスが適切に提供される地域包括ケアシステムの考え方が主流になってきております。本市におきましては、この地域包括ケアシステムの構築を推進するため、資料4でございますけど、昨年12月25日に桑名市地域包括ケアシステム推進協議会条例が公布、施行されております。これまでに、協議会と合同部会を合わせまして2回開催されたところでございます。こちらの推進協議会には、本日お集まりいただいております委員の皆様が多く新しい協議会の委員にもご就任いただいております。

このようなことから、地域包括ケアシステム推進協議会のより大きな枠組み、役割の中で、地域医療対策連絡協議会の役割を実質的に引き継ぐことが可能と判断しております。今後につきましては、既に役割を終えている2つの部会とあわせまして、この連絡協議会を発展的に解消することを考えまして、地域包括ケアシステム推進協議会へ引き継がせていただきます。よろしく、ご理解とご協力のほど、お願い申し上げます。

以上、平成26年度以降の当協議会のあり方についてのご説明でございます。

【東議長】 そういうことで、確かに、この問題は、一応、私の理解では、この地域での急性期の2次医療を完結できるような病院をつくるというような意味合いのところ立ち上がったようなところがございまして、それもほぼ、あとは建設を待つばかりというところになりましたし、今後は、これから日本として一番の課題である在宅医療、地域包括のシステム、そちらのほうの中で、その中では当然急性期の医療というようなものも考えていけないといけないわけですので、その中で、包括的に取り組んでいけばいいのではな



いかと私も思っておりますけれども、事務局と申しますか、市のほうでもそういうお考えのようではございますけれども、これについてはよろしいでしょうか。

**【伊藤委員】** 先ほども事務局から説明があったように、この組織自体が22年から本格的に稼働させていただきました。今、先生のほうからご紹介がありましたように、やはり山本総合病院と桑名市民病院の再編統合というところを大きな目的として、この会も設立させていただいて、ほんとうに当初の目的、平成22年の、私ももう忘れないんですけども、9月の議会の決議をいただいた以降、地域医療再生基金特例交付金、これを取りに行くためには、ほんとうに医師会の皆様、各種、本日もご参加いただいております皆様方、ましてや、そのときに県のほうの外部団体の部会を務めていただいた竹田先生等については、ほんとうに親身になって桑名の地域医療が大切だということをご認識いただいて、このような現実となってきております。ここら辺に対しましては、事務局を預かっておる者皆々とほんとうに感謝申し上げます。どうもほんとうにありがとうございました。

**【東議長】** ほんとうに歴史がこの数年の間でいろいろありました。私もほんとうに、今、部長が言われましたように、こういうようにしてこの会が発展的に解消できるのも竹田先生がご尽力いただいたおかげだと思っております、ほんとうに改めて感謝申し上げます。

そういうことで、発展的に解消するんですけど、とにかく、この会としての思いも、新しい新病棟ができて上がるのを一刻も早くという期待のもとに、それを祈念して、これを発展的に解消したいなと思っております。

以上、それでは、今日の議事のほうはこれで終わりたいと思いますが、事務局のほう、よろしく申し上げます。

**【事務局（加藤）】** どうもありがとうございました。

今、皆さんにご意見いただきましたように、この会は発展的にということで解消させていただきますので、ほんとうにありがとうございました。

先ほども説明させていただきましたとおり、来年度以降につきましては、本市における地域医療対策につきましては、介護や福祉の分野と合わせ、桑名市地域包括ケアシステム推進協議会の場でご意見をいただいきたいなというふう考えております。そして、本日もご出席をいただいている委員の皆様の方のほとんどの方は、この地域包括ケアシステム推進協議会の委員になっております。また、引き続きご意見等、よろしくご指導いただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いたします。

それでは、これをもちまして、平成25年度桑名市地域医療対策連絡協議会を終わらせていただきます。ありがとうございました。

— 了 —